

やまべひろし議員が一般質問を行いました

6月7日に行われた一般質問では、「熊本地震被災者への支援について」「教育の分野について」「国民健康保険」「介護保険」「子ども食堂」「立野ダムの問題」「出張所の廃止について」などを取り上げました。



熊本地震被災者への支援について

被災者への医療費減免の復活を！



大西市長は、昨年9月末をもって、被災者への医療費減免を打ち切りました。

市長は打ち切りの理由を、「国からの財政措置がなくなったため」と答弁。しかし熊本市が減免を継続する意思を示せば、国からは費用の8割の負担措置があります。

東日本大震災では岩手県など、国からの負担措置を活用する一方で、自治体が独自の財政措置をとり、7年以上たった現在でも減免制度を続けている市町村があ

ります。

市議団がおこなったアンケートでも、減免の対象となっている方のうち、65%の方が「受診抑制などの影響があった」と回答されています。

やまべ市議は、「生活再建は、震災で悪化した体調がしっかり回復してこそ」と指摘し、被災者の置かれた状況の把握と、市の責任において、早急な医療費減免の復活を行うことを強く求めました。



日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまだか やまべひろし

熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO. 1100
2018年6月17日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

り災証明の申請受付、「今後も個別に相談に応じていく」と答弁

り災証明の申請受付について、「やむを得ない事情」がある場合にのみ、今年の5月末まで受付延長が行われました。

延長期間中の申請受付は、9,637件にのぼり、うち何らかの公的支援が受けられる「半壊」以上の判定は、1,296件もありました。

申請できなかった理由も「体調の悪化」「入院」「長期出張」のほか「大家から賃貸住宅は申請できないと言われた」というものまでありました。市が想定する以上に、

さまざまな事情で申請ができなかった被災者の存在が明らかになっています。

やまべ市議は「り災証明の申請を受け付けないということは、行政が『あなたは被災者ではない』とすることに等しい」として申請受付の延長を求めました。

これに対し市は、「今後も個別に相談に応じていく」と答弁しました。



【控室から】 市民の声を聞き「さくらカード」充実を 上野みえこ

6月10日、「さくらカード」を考える市民の集いが開かれました。会場いっぱい参加者から、「さくらカード」への思いが語られました。

高齢の方は、「改悪されると利用が減り、閉じこもる高齢者が増えるのではないか」という不安の声。北区の方は「街へ来るのに片道400円、往復だと800円もかかる。乗り換えればもっとかかる。絶対に改悪しないでほしい。」の声。作業所に通う障がい者は「月15000円程度の工賃で、パス券（年間2000円）がなく1割負担になったので、月数千円の交通費が必要。生活がきびしくなった」、重度障がい者のご家族は「残高の確認やチャージができない。不足額をわざわざ払いに行ったことが何度もある。支払うときの音も一般の人と違い、劣等感を感じる人も多いと思う。」と言われました。今年70歳を迎える方は、「さくらカードをもらえることを何より楽しみにしてきたのに、見直しと聞いてがっかりです。」
「さくらカード」は、見直しのたびに負担が増えたり、利用しにくくなったたりしました。なぜ、どんどん悪くしていくのか。市民の声に耳を傾けるならば、改悪でなく、充実・改善すべきです。

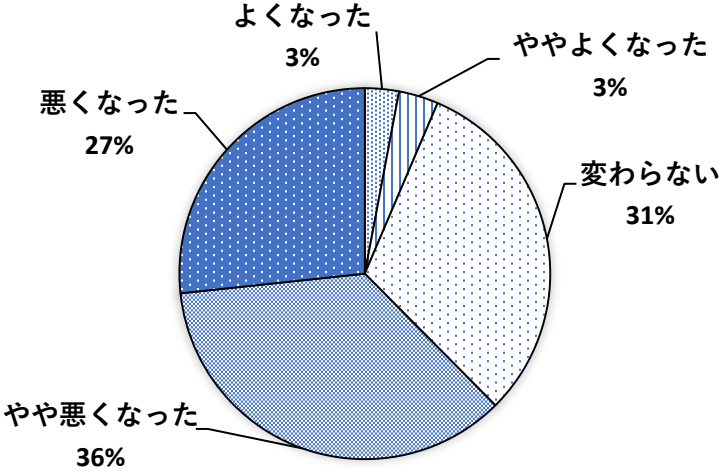


市民アンケートへのご協力ありがとうございました

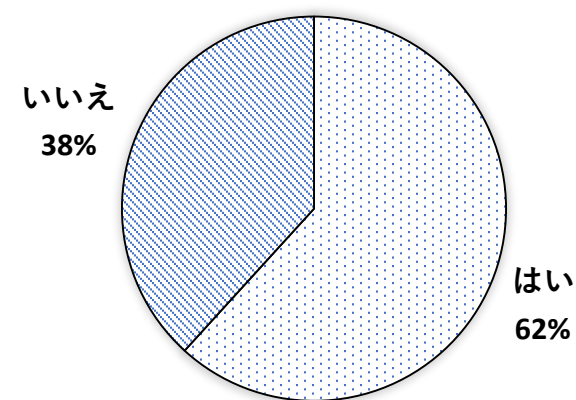
日本共産党 市議会だより 2018 年 6 月 17 日号

市民アンケートへのご協力ありがとうございました。アンケートは市内に10万枚を配布し、800名をこえる方からご回答をいただきました。寄せられた声はこれまでも市議会での発言で取り上げてきました。引き続き、熊本地震復旧の支援拡充に取り組んでいきます。アンケートの回答の一部をご紹介します。

6割が以前に比べ生活が悪くなった 最近の暮らしむきについてどう感じますか？ (4年前との比較)



4割が震災前の生活を取り戻せず 震災前と同様の生活を送れていますか？

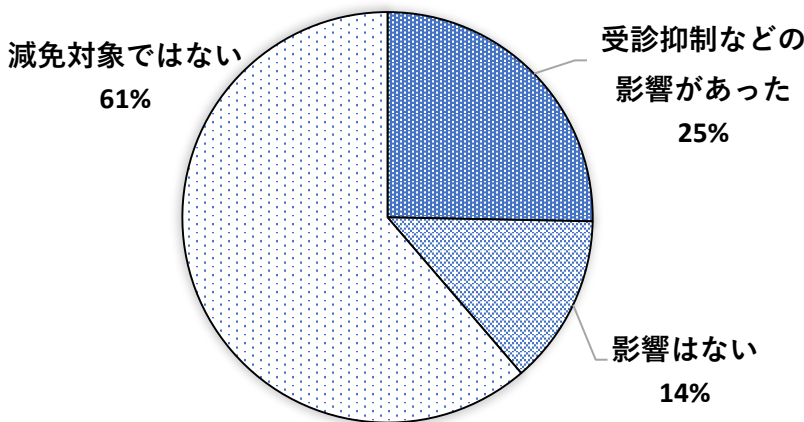


「いいえ」と答えた方が回答した理由

震災前の生活が取り戻せていない理由	回答数
住宅や宅地の修繕・再建が進んでいない	72
体調が悪化した	66
生活再建の費用がかかり生活が苦しくなった	55
支援制度が受けられない	16
住宅が見つからない	12

医療費減免対象者の65% 受診抑制など影響あった

医療費減免の打ち切りで影響はありましたか？



医療費減免の打ち切りによる項目では、減免対象となっている方の65%が「受診抑制など影響があった」と回答しました。

記述欄には「家の修繕に多額の費用がかかるため、病院に行く回数を減らした」「多少の体調が悪くても我慢している」などの声が寄せられています。

熊本市に力を入れて取り組んでほしいことはなんですか？（複数回答可）

最も多かった回答は「国保料の引き下げ」でした。その他の回答は以下の通りです。

項目	回答数
国保料の引き下げ	588
生活再建に向けた被災者支援	485
貧困対策	458
介護保険料の負担軽減・サービス拡充	389
税金のムダづかいをしない	365
ガン検診や特定健診の無料化	182
保育の充実	151
雇用対策	141
子ども医療費助成の拡充	126
地下水保全など環境対策	123
交通渋滞の対策	101
さくらカードの充実	87
障がい者支援	87
公共交通の利用促進	85
景気対策	82
生活道路の整備	76
市電の延伸	72
奨学金の拡充	67
商店街の活性化	60
防犯対策	57
熊本城の復旧	47
防災対策	47
温暖化防止	39
熊本城ホールなど中心市街地の再開発	25
少人数学級の拡充	22
児童育成クラブの拡充	17